

研究課題 (テーマ)	早期リハビリテーションにおける ICU 達人看護師の実践評価スケールの開発		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	准教授	河相てる美
分担者	看護学部看護学科 看護学部看護学科	講師 講師	二本柳圭 鷲塚寛子
研究結果の概要			
<p>【目的】</p> <p>手術後に集中治療室 (Intensive Care Unit:以下 ICU) で治療を受ける患者の合併症予防のためには、早期リハビリテーションの介入は重要である。ICU 看護師が早期リハビリテーションチームの中でどのような早期リハビリテーションに関連する専門的な看護実践能力を発揮しているのか、早期リハビリテーションのリーダー的役割を担う ICU に勤務する達人看護師への半構造化面接の結果とガイドラインをもとに早期リハビリテーション看護の実践評価スケールを開発することを目的とした。</p> <p>【方法】</p> <p>作成した早期リハビリテーションにおける ICU 看護師の実践内容の質問紙を研究分担者とともに検討した。さらに、クリティカル領域の専門家の助言を受けて再検討した。そして、作成した質問紙によるアンケートを調査協力者に対して実施した。アンケート結果を集計し、探索的因子分析による因子抽出、構成概念妥当性の分析を行った。</p> <p>【結果】</p> <p>早期リハビリテーションにおける ICU 看護師の実践内容について明らかにすることができた。早期リハビリテーションにおける ICU 達人看護師の実践評価スケールとして活用するために、対象者を増やして、アンケートを実施し分析する必要がある。</p>			
今後の展開			
<p>早期リハビリテーションにおける ICU 達人看護師の実践評価スケールにより ICU 達人看護師の早期リハビリテーションの看護介入を判断する際の実践知による思考過程を可視化することができれば、ICU 新人看護師や一般病棟看護師の看護介入促進に繋がる。得られた結果を機械学習用 PC で分析し、達人看護師の判断基準を人工的に可視化することで、必要な情報つまり最小限の情報で判断できる実践知を習得する機械学習による学習モデルの基盤になると考える。</p>			